

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	Gripキッズ 両国緑校		公表日		2026年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	基本的には基準を満たした職員配置を行っていますが、日によって職員数が少なく感じられる場合があるとの意見がありました。今後も児童の利用状況や支援の必要度に応じた適切な人員配置を行うとともに、職員間での役割分担や支援体制の工夫を行い、安全で質の高い支援が提供できるよう努めてまいります。	日にちにより職員の人数が少ない場合がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	職員が日常的に意見を伝えやすい環境づくりに努めており、個別に意見を共有する機会も設けられています。今後はさらに定期的なミーティングや情報共有の場を活用し、職員の意見を組織として把握・整理し、業務改善や支援の質の向上につなげていきます。	機会は自分で設けて意見を述べさせて頂いています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	1		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			

16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	活動プログラムは主に常勤職員を中心に立案していますが、パート職員からも日々の支援の中での気づきや意見を共有できるような仕組みづくりを進めています。今後も職員全体の意見を取り入れながら、チームでより良い活動プログラムを検討していきます。	パートの為活動プログラム立案には携わっていません。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	支援開始前には、児童の状況や当日の支援内容、役割分担について確認するミーティングを実施しています。送迎業務等の都合により十分な時間を確保できない場合もありますが、短時間の打合せや個別の引き継ぎを行うなど、職員間での情報共有を徹底し、チームで連携した支援を行うよう努めています。今後も効率的な情報共有の方法を工夫していきます。	土曜日、祝日は送迎の兼ね合いにより難しいこともあるが、短時間でも打ち合わせをしたり個々で引継ぎするように務めている。ミーティングはなるべく行っていますが、送迎等で行えない日もあります。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	支援終了後には、児童の様子や支援の中で気づいた点について職員間で共有するよう努めています。毎回必ず実施できていない場合もあるという意見がありました。今後は記録の活用や短時間の振り返りの機会を設けるなど、日々の支援の振り返りと情報共有をより確実に行える体制づくりを進めていきます。	気になる点は職員の方に話すようにしていますが、毎回必ずではありません。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	1		
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせず支援を行っているか。	4			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		支援開始前の打ち合わせ等を通して、児童の困りごとや最近の様子、心境の変化などを職員間で共有しながら、一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を行っています。今後も、活動内容の選択や意思表示の機会を設けるなど、子どもが主体的に選択・決定する経験を大切にした支援を継続していきます。	支援開始前の打ち合わせのなかで児童の困りごと、最近の様子について(心境の変化を含めた)細やかに情報共有ができておかげもあり、児童の心情に寄り添いながら支援にあたることができているため従業員の皆さまに大変感謝しております。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	1		
27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		
28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	4			
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1		

関係機関や保護者との連携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	地域行事への参加などの機会はありましたが、地域の子どものとの交流の機会はまだまだ十分とは言えない状況です。今後は地域資源の活用や、同法人内の他校舎との交流などを通して、子ども同士の関わりを広げる機会づくりを検討していきます。	地域の行事(お神輿)を見に行く機会はあったが、地域の方との交流の機会がないため、両国校など近い校舎を中心にまずは他校舎との交流できる場を拡げていきたいと感じている。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	1	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	1		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	2	現在、保護者会などの開催には至っていませんが、療育後の送迎のタイミングなどで保護者同士が交流する様子も見られるようになってきました。今後は保護者のニーズも踏まえながら、保護者同士が情報交換や交流を行える機会について検討していきます。	保護者同士での交流の場を設けるところまでは至っていないが、検定を療育後、送迎をご家族さまの対応にしたことによって、送迎のタイミングが重なったご家族が話しているところを見かけるようになった。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	1	定期的な通信やSNSの活用は十分に行えていない状況ですが、活動プログラムの内容を利用のない児童にも共有することで、活動への参加につながるケースも見られています。今後は、活動の様子や行事予定などを分かりやすく発信できるよう、情報発信の方法について検討していきます。	定期的な通信、SNSの活用はできていないが、集団プログラムの内容を利用がない児童にも毎月送信することによって活動が再開したり、内容を見て参加したいと連絡があったりすることがあった。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	I	利用児童の健康・安全に関わる情報については、事前に確認を行うとともに、食物アレルギーなどの重要な情報については職員が誰でも確認できるよう掲示するなど、共有を行っています。今後も児童の健康状態や必要な配慮について職員間で適切に共有し、安全な支援環境の確保に努めています。	食物アレルギーのある児童は誰でも目視で確認できるように名前、アレルギー物質を記載したものを手洗い場に貼っている。アンケートに「いいえ」と回答したのは、現在は該当のお子さんに接していない為。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	I		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	I		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	I		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	I		